

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1278400088		
法人名	医療法人美篤会		
事業所名	グループホーム美しの里		
所在地	千葉県南房総市和田町松田715-1		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成24年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体となる協力病院と医療連携を強化し、健康面の不安に対するフォローが充実して来ています。敷地内の畑やグループ内のほかの畑から野菜を収穫し、旬の野菜をふんだんに使った献立作りをしています。栄養バランスの良い食事を提供し、皆さん元気に過ごしています。明るく清潔感のある環境を皆で作し、季節を感じられるよう花を飾ったり、手作りの壁飾りを四季折々に工夫したり、年中行事を欠かさないうような誕生会を含めた昼食会や夕食会を皆で楽しんでいます。外出の頻度は多くありませんが、庭が広く、梅もぎをしたりお花見をしたり日向ぼっこを楽しんだりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 広い敷地に建てられた2階建て2ユニットのホームで、グループホーム専用の設計であるため、エレベーターが設置されており、居室も居間兼食堂、トイレ等の共用空間も全体的にゆったりとした作りです。
 2. このところ職員の定着率がよく、利用者と職員間でも安定した関係が築かれ、利用者の精神的な安定にも良い影響を及ぼしているものと思われます。家族アンケートでは、他のグループホームでありがちな、「職員がすぐ辞めるので」不安といった声は一切聞かれません。
 3. 上記「事業所のアピールしたい点」にもあるように、運営母体が歯科もある病院であるため、医療の連携が緊密で、加えて系列の訪問看護ステーションとのオンコール体制が確立しているため、医療面で安心感があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (和)	外部評価 (和及び穂合同)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・安全をモットーに、ご家族の代わりと なれるよう努めています。	地域の方との触れ合いを大切にする旨の文言も含んだ独自の理念を掲げ、目指すところを外部からの来訪者にもよく分かるようホーム内に掲示しています。職員も朝の申し送り時に唱和することによりしっかりと共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小・中学生の体験学習の受入れ。高校生の季節の花々や農作物の訪問販売があり、時間のある時には、一緒にお茶を飲んでいってもらったりと、子供たちと触れ合う機会は多いです。	回覧板を回してもらい、地域の運動会に見学に行く、市主催の敬老会に全員で参加する等の一方、区長や老人会長が運営推進会議に参加、体験学習の受け入れ(中学生2~5人)、地域の人に月2回習字の練習指導に来てもらう等交流が進んでいます。	現在行っている、火、木、土に1~2名だけの散歩ではなく、もっと多数の利用者が外に出るようにすれば、地域の人たちとの交流の機会も増えるものと思われます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険の利用についてや、入居の相談などを受たり見学はいつでも受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に施設内での出来事や取り組みについて報告し、率直な意見を聞かせていただいたり、地域の情報を教えていただいたりしています。	今年は、地域包括支援センター職員、区長、老人会長、民生委員等外部から多くの人の出席を仰ぎ、3回開催し、現況報告や事故報告等各種報告を行う他、外部評価等について話し合い、運営に役立つ意見やアドバイスを受けています。	管理者が既に理解しているように、あまり堅苦しく考えることなく、気軽に集まって話し合える場にする等の工夫をして、2ヶ月に1回以上の開催を目指すことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	確認したいことや、相談がある時には、連絡をしているが、協力関係とまでは言えません。	市との各種申請や相談事・交渉事は、既に地元で大きな存在感を有する運営母体の事務局が行っているため、ホーム自身ではあまり親しい関係を築くことはありません。ただ、運営推進会議には地域包括支援センターからの出席があり、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある方が外へ出られることはあるが、自分で家の近所ではないことを確認すると戻ってこられる。危険と判断した場合にのみ玄関の施錠を考えるが、まずない。	玄関は日中施錠していません。人の出入りはチャイムの音で職員が察知し、常に利用者の安全に気を配っています。身体拘束排除については、ホームの倫理綱領の中に謳い毎年職員と確認する他、本部主催の研修会に多くの職員が参加する機会があり、理解が進んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内出血・表皮剥離しやすい方もいて十分に注意を払っているが、気づかないうちに出来ていることもある。介助の仕方などみんなで検証し、対策をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価（和）	外部評価（和及び穂合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もおり、今後も必要な方への支援が出来たらと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の中でもそれぞれの立場によって思いは違うところがあり、必要を感じた場合には、こちらから働きかけ要望に応えられるようにしている。	利用者は日頃のケアの中で意向を把握するようにしています。家族については、面会に来訪した時や、電話連絡の際に聞くようにしていますが、年2回程度、特に介護計画作成の時期に来訪する際に30分ほど時間をとってもらおうよう依頼しておき、じっくり話を聞くようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談を設けて意見を聞けるようにしています。改まった場ではなかなか話しにくい職員もおり、普段の職員同士の会話も大切にしています。	職員に自己評価表により目標を作成させ、その際管理者が直接面談することとしており、提案等意見を表明できる機会を設けています。また、毎日のミーティングの場で気軽に話し合えるようにしています。職員はホーム内は話しやすい雰囲気があると話しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善していきたい事に関しては、業務改善会議などで検討してもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修・外部の研修への参加と、個々の介護力については、その時々でフォローしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の事例などを聞かせてもらうことで、自分たちの介護のヒントになったり、自分たちの仕事の振り返りもできています。		

自己	外部	項目	自己評価（和）	外部評価（和及び穂合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に代わっているような役割をはたせるような関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても同様に接しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の現状をふまえたうえで、ご家族とともに考え支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りや料理の方法など、得意なことを教えてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊が無理なら外出でもと、送迎もこちらで行うと申し出ますが、叶わない方もいます。面会についても、各家庭の事情によりますが、頻度はまちまちです。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の頻度は少ないが、自宅やなじみの場所の近くを通ったりしながら、思い出話を聞かせてもらったりしています。定期受診の際に、近所の方と会うことも多く、差し支えない程度に近況をお話されたりしています。	日常の関わりの中で、声をかけ、言葉や表情に関心を払い、把握するよう努めています。馴染みの床屋に出かけたり、墓参りに出かける例もあります。受診時には近隣の知人との会話を楽しむ利用者もいるということです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	たまに利用者同士言い合いをしたり、席替えが必要なこともあるが、そういうこともお互いに関わりを持てる機会だと思っています。ただ、その後に影響を残さないように職員がフォローしています。		

自己	外部	項目	自己評価（和）	外部評価（和及び穂合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、思いに沿えるよう支援し、必要なことについては、納得してもらえるよう説明しています。	日々の関わり・声掛け・会話の中から思いや意向に関心を払うようにしています。自分から落ち葉掃きに出かけて「お陽さまに当たって気持ち良かった」と身体を動かして満足する、庭の雑草が目にとまり草取りをする、といった例もあるとのこと。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報をいただいたり、ご本人の言動からも把握できるように、どんな話があったかを記録に残し、みんなが共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や現状に合わせ、また、上手く表現できない方もいるので、表情や言動からも読み取るようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の様子、ご家族の意向をふまえて現状に合わせて作成しています。	介護計画の作成時及び状態の変化時は、家族・医師・看護師・管理者・ケアマネジャー・スタッフ等関係者と検討して介護計画を作成し、また随時見直しをしています。モニタリングは3か月に1回評価を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	不穏時の対応や、喜ばれたことなど、どんなやり取りがあったかを、みんながわかるように記録に記入し対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の協力を頼りに柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価（和）	外部評価（和及び穂合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な方は地域の行事に参加したり、ドライブがてら道の駅に立ち寄りお茶の時間を楽しんだりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は協力病院へ。他科受診や専門医のフォローが必要な場合は、ご家族と同行させてもらい、普段ご家族が分からない部分は、主治医へ相談し服薬の調整などしてもらっています。受診が困難な場合は、訪看に指示を仰いだり、協力病院の往診をお願いしています。	月1回の協力病院での定期受診や遠方のかかりつけ医での受診等に職員が同行していますが、家族が同行する場合があります。結果は家族に処方箋をコピーして送ったり、医師の指示等がある場合は電話で報告しています。受診が難しい場合は協力病院に往診を依頼したり、複数の医療機関と情報のやり取りをして関係を築き、適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて、相談・指示をもらっています。すぐに受診が必要ないと判断される場合でも、いつもと違う様子が見受けられた場合など、早めの報告をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	治療だけではなく、精神的なストレスも大きいので、認知症であることを十分理解していただけるように、また、ご家族の不安も軽く出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の思いや方針は変わることも多く、主治医との面談や状態報告をこまめにし、ご本人のために何ができるのかを一緒に考え取り組んでいます。	協力病院は当ホームの運営母体である医療機関です。看取りの指針に同意を得ており、この1年で看取った例もあります。往診や訪問看護は24時間対応で、いざという時の医療連携体制が十分です。携帯電話の利用ですぐ対応してくれるようになった事で、取り組みに職員が関心を持つようになったと話しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には言えないが、交代で講習会に参加し備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本院や系列施設との連携、地域の消防団のかたにもご協力いただき協力体制を考えています。	地域の消防団と協力関係を築いており、津波想定避難訓練及び火災想定避難訓練、夜間想定訓練、停電想定炊き出し訓練と年4回多岐に亘って自主訓練を実施しています。スプリンクラー等防火設備は完備しており、備蓄品も3日間分程度確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価（和）	外部評価（和及び穂合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれにあった言葉かけをに対応しています。	管理者は、対人サービスに携わる者として日々の関わり方を点検しており、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応の徹底に努めています。職員がやさしい声掛けでトイレ誘導している場面が見受けられました。	一人ひとりの誇りを尊重することや、プライバシーを守り通すことは難しいことですが、パート職員も含めた全職員個々の行為について常に具体的に確認し合うことが望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く言い表せない方、相手の言葉につられてしまう方には、選択肢を入れながら会話し、自分の意思を伝えられるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを崩さないよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出かける時は帽子をかぶるなど、こだわりもあり好みや習慣を大切にに対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を運ぶのは難しいですが、食卓の上は皆さんにお願いしています。食事制限のある方や嚥下食の方もいますが、なるべく彩りよく提供できるようにしています。	日常的にテーブルを拭いたり、盛り付けや片付け等利用者個々の力を活かしながら、職員を手伝っています。職員が利用者と談笑しながら食事をしているユニットと職員は介助に徹しているユニットに分かれています。旬の野菜を彩りよく盛り付ける等して好みの料理が提供され「おいしいね」と和やかな雰囲気	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・きざみ食・ミキサー食とそれぞれのレベルに応じて、なるべく残さず食べてもらえるようにしています。水分量が少ない時は、好みの飲物に変えてみたりとそれぞれに合わせて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケアの実施、口をゆすぐのも困難な方は、口腔清拭にて対応しています。痰がらみや肺炎が心配な方もおり、食事介助の前にも口腔内を清潔に保てるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価（和）	外部評価（和及び穂合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ったり座ったりの動作による失禁もありますが、夜間もトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を心がけています。日中は全介助の方も2人介助にてトイレでの排泄を続けています。	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも、時間を見計らってトイレ誘導するようにしています。リハビリパンツ使用でもトイレに誘導して排泄を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にはあわせられず、こちらで決めています。気が乗らない方は時間をずらしたり、日をあらためて、ご本人が気分よく入れるようにしています。	ほとんどの方は週3回入浴をしていますが、今までの習慣で毎日入浴を希望され楽しめる方もあります。拒否される利用者には時間をずらす、スタッフを変える、日を改める等気分よく入浴ができるよう、個々に添った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに休息の時間を取れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用に注意し、症状の出現みられたら、主治医に報告・相談し、服薬の中止の指示をもらったりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることの差はありますが、それぞれに出来ることをお願いしています。「やるよ～」「こっち持ってきなよ～」と洗濯物や、野菜の下ごしらえなど、私の仕事と思いき受け付けてくれる方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	不穏時に気分転換を兼ねて出かけることはありますが、その日の希望にそっての外出支援は出来ていません。	週3回1～2人の方のみの外出支援をしていますが、その日に外出を希望をされる方がいない為計画的な外出支援は行っていません。	天気のいい時は施設内の中庭に気軽に出て陽にあたる等短時間、外に出る機会を作ることで、気分転換やストレスの解消・五感刺激が得られます。日常的な外出支援が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価（和）	外部評価（和及び穂合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については、こちらでしていますが、欲しいものや、必要なものはその都度、買い物の際に聞いて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯やご家族の状況には、配慮していますが電話はいつでもかけていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて貼り絵や折り紙の飾りを変えたり、庭の草花や、木の実を飾ったりして楽しんでもらっていると思います。	居間兼食堂はゆったりして明るく、キッチンのコーナーからは調理の音や匂いがして、生活感があります。別のコーナーには花を飾ったり、壁にクリスマスの飾り付けをする等季節感もあります。浴室及び車椅子対応トイレ等にも嫌な臭いはありません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに居室で過ごされるというよりは、リビングにて過ごされる方が多いので、時には気が合わない日もあり、席を変えたりということはありません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や自宅での生活に近い方もいれば、居室は寝るところとなっている方とまちまちです。	居室は押入れ又はクローゼットが備え付けのため、整理が行き届き、総じて簡素ですが、それでも、テレビ、椅子、テーブル、書籍等馴染みのものを持ち込んだり、棚のあるコーナーに家族が写真や装飾品等を飾ったりして、居心地よく過ごせるよう十分配慮されています。どちらかといえば居間よりも居室にいるほうを好む方もあるようです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る範囲でそれぞれに活動してもらっています。		